



2021年6月13日の御報恩御講・創立記念虫松会の様子

第53号

法遍寺 から大切な 皆様へ

2021年7月1日

日蓮正宗 年間方針

宗祖日蓮大聖人
御聖誕800年の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成と折伏実践

年間実践テーマ

① 日々勤行・唱題の実践

功德の源泉

一家和樂の信心

② 折伏実践こそ最善の報恩行

御命題達成

誓願成就

③ 寺院参詣と登山で人材育成

無始の罪障消滅

一生成仏

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

鎌倉の世、下総国の大檀越であった富木殿は、母の三回忌の折、大聖人に対し錢七結を御供養され追善回向を願われた。それに対し大聖人は返書を著され、「人は無始の昔から煩惱・業・苦の三道の中におるが、妙法の信仰によって、それが三徳と変わる。末法の凡夫が妙法の法門を聴くならば、ただ自分だけが成仏するばかりでなく、父母もまた即身成仏するのである。これが第一の孝養である」(御書 1207~1209頁 趣意)とご教示された。三徳とは、因果の真理に安住し、一切を透徹する智慧を得て、苦の束縛から離れた自在なる境界である。法華經の法門を聞いて信に身をおくところ、煩惱→業→苦の三連鎖が三徳(法身→般若→解脱)に開花し、それがまた父母へ追善として回向されるのである。今月と来月は盂蘭盆会が修される。真実の孝養を尽くすべく参詣を心得よう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その11)

前回に続き創価学会の52年路線の逸脱は、「寺院軽視」、「僧侶蔑視」が挙げられる。学会は、寺院と会館を同視し、さらに進んで現在の真の道場は会館にあるとして、会館で幹部が導師となつて結婚式や法要まで行ない、在家も供養を受ける資格があると言い出した。また寺院への参詣はしてはならないとか、学会員こそ僧宝であるして下種三宝を破壊し、学会員こそ現在における出家であるなどと言い出した。これらの教義逸脱に至る本質は、当時の池田会長の大きな慢心と野望であり、「学会は主、宗門は従」とすることであった。昭和53年6月19日、これらの問題について、宗門より学会へ三十四箇条の質問書が提出された。宗務院は6月29日、総本山において教師指導会を開催し、それに対する学会からの回答を発表した。(次号は6・30に続く)

③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(人生の苦楽について)

「日日是好日(にちにちこれこうじつ)」。意味は「毎日毎日が平和な良い日であること」(広辞苑)とある。これは平安末期、混乱の世相の中、ある臨濟宗の僧が禅修行をまとめた中の言葉である。楽観的に人生をおくる意味として根強く現代に語り継がれているが仏説ではなく処世術の域をでない。人たる者、毎日が良い日であることを願わない者はない。しかし、思うようにいかないのが人間社会であり、戦争や疫病の中では楽観視は存在しない。己が人生の苦を苦として受け入れ、楽は楽として人生を開く一助であるとの理解が必要である。法華經の法門では因果の理法を説き、永遠の生命觀に立脚し、前世からの罪障を毒薬(毒を変じて薬となす)功德、すなわち妙法の不可思議による成仏を説く。貴重なる人生を完成させるため法遍寺においで下さい。